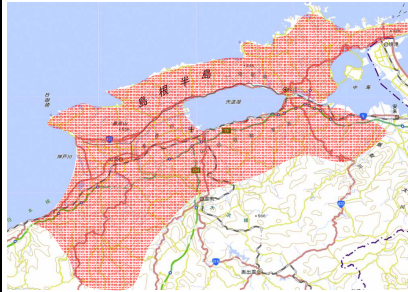


生物・生態サイトカード

通しNo.		C-3	更新日	2025/3/19
サイト名		きんねんかくにん 近年確認されたイズモサンショウウオ		
基本情報	区分	☒ 動物 ☐ 植物		
	生息地	島根県出雲市、松江市の大部分、雲南市と安来市の一部		
	分類			
	管理団体／保護団体／モニタリング			
	留意点	ヒダサンショウウオ:しまねレッドデータブック(準絶滅危惧)		
サイトの解説	生物・生態	イズモサンショウウオは、2021(令和3)年に新種として発表された小型のサンショウウオで、それまでは全国に生息するカシミサンショウウオと同じものとされていた。近年になって外部形態や遺伝子情報などが詳しく調べられた結果、これまでカシミサンショウウオと呼ばれていたものが9種に細分され、それぞれが独立種として認められた。 イズモサンショウウオは、出雲市及び松江市の大部分、雲南市北部、安来市の一部に生息しており、島根半島の日御碕灯台付近の海岸近くでも確認されている。尾の下部に黄色な線を持つことなどが特徴とされており、幼生は流れの緩やかな水田の水路などに生息する止水性のサンショウウオである。 わが国に生息するサンショウウオは45種が知られているが、この内で1m以上に成長するものはオオサンショウウオ1種だけで、他のサンショウウオは成長しても20cm以下の小型のサンショウウオである。イズモサンショウウオも小型で、成長しても15cm程度(頭胴長5-6.5cm)である。島根県内には、オオサンショウウオやオキサンショウウオなどを含め、日本産サンショウウオ45種のうちの10種が生息しており、生息種数では全国一多い県となっている。 本種は、ふだんは里山の森林内で生活しており、たまった枯れ葉の下や堆積した石のすき間などで見つかることがある。産卵期は1～3月で、早いものは12月頃から山際の水田の溝や小さな水たまりなどに集まってくる。メスは産卵直前に水に入り、水中の枯れ枝や石に卵囊の端を付着させ、ラセン状の1対の卵を産み付け、そこに雄が群がって受精が行われる。卵からふ化した幼生は水中で4.5cmほどまで成長し、夏の初め頃変態して陸上で生活するようになる。 なお、北山山系には同じ小型のサンショウウオで溪流性のヒダサンショウウオも生息しており注目される。本種は関東地方以西の本州に生息し、山口県を分布の西限とするサンショウウオで、県内でも局所的に生息している。		
	地形・地質、歴史・文化等	サンショウウオの仲間には、最終氷期以降の海岸線の変化に応じた分布を示している報告(本間久英, 2009, トウキョウサンショウウオの生息地分布に関する地質学的考察.東京学芸大学紀要 自然科学系, 61: 51-54)があるが、イズモサンショウウオについては、地質地形との関係の詳細は不明である。		
写真・図等		 イズモサンショウウオ ヒダサンショウウオ		
参考文献		山陰中央新報デジタル:新種「イズモサンショウウオ」 安来の研究者 島根東部に生息確認 (https://www.sanin-chuo.co.jp/articles/-/80433). 川添宣広(2021)フィールド探索記 日本のサンショウウオ. 誠文堂新光社.		